

危険予測学習の進め方（例） — 停車中の車両間の横断の危険 —

学習内容	指導上の留意事項等
①交通状況の読み取り (個人～発表)	<p>この絵はどんな場面だと思いますか。絵を見て考えられることを発表してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らが自転車運転者の立場となって、状況を詳しく把握させる。 ・発表させる。 (道路の状況、自転車の状況、周囲の車両の状況など) ・児童に次のような状況を読み取らせる。 道路は渋滞し、車が停止している状態である。 友達が道路の向こう側にいるのを見つけ、一緒に遊ぼうと、停車している車両の間をすり抜け、道路を横断しようとしている。
②危険の予測・重大な危険の絞り込み (発表～話し合い)	<p>このまま進んだら、どのようなことが起きると思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この場面で起こり得る事故やありそうな危険をできるだけ多く予測させ、板書する。その理由も述べさせる。 ・どのような意見でも肯定的に受容する。 ・道路は、手前の車線だけでなく、反対車線もあり、車はすれ違っていることを十分に認識させ、そこで起こりうる危険をしっかりと考えさせたい。 <hr/> <p>「ありそうな危険・起こりそうな事故」のなかで、重大(大変)だと思う危険・事故を選びましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを用いて、◎や○を付けさせるのもよい。
③回避方法の考察	<p>そのような事故にあわないためにはどうしたらいいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絞り込まれた危険・事故に対し、どのようにしたら危険が回避できるか、話し合わせる。 ・運転者が陥りやすい心理なども考え、ふさわしい行動を話し合わせる。 ・選んだ回避方法の理由を明らかにさせる。
④まとめ	<p>これから気を付けることを自分の言葉で短くまとめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ワンポイント行動目標」として一言でまとめさせる。 例：「横断歩道を使って横断する」「見通しの良い所で安全確認する」等

※ 一斉学習だけでなく、導入後、4、5人のグループに分けて、①②③の活動を行い、最後に、グループごとにまとめを発表させる方法もよい。

※ グループで進める場合は、簡単なワークシートを作成し記入させるとよい。

安全上の望ましい行動	<p>① 道路を横断する場合は、左右から走行してくる車両があるかどうかをしっかりと確かめることが必要である。停車中の車両の横を二輪車が高速で近づいてきたり、渋滞していない向こう側の車線を他の車両が走行してきたりすることにも注意をする。(教則第3章第2節2(3)参照)</p> <p>② 人が先に横断してしまっても、すぐにその後を追いかけないで、停車車両のない見通しの良い場所に移動してから、安全を確かめて横断する。</p> <p>③ 早く向こう側に渡る必要があっても、その急ぐ気持ちに気を取られて、左右の安全確認を怠りがちなので、どのような場合でも車道に出る手前で停車し、落ち着いて安全を確認して横断する。</p> <p>④ 走行してくる車両の運転手が周囲の景色などに気を取られ、横断者を見落としたり、発見が遅れたりすることがあるので、車両との十分な距離、または車両が来ないことを確かめて横断する。</p>
------------	---